

厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）
分担研究報告書

生活・療養環境による要望特性に応じたがん情報提供・相談支援体制の在り方：
地域ニーズの検証と活性化人材の育成と普及に関する研究
- がん診療連携拠点病院におけるがん情報提供・相談支援の実効性解析、
その有効性向上モデルの検討 -

研究分担者 藤 也寸志 国立病院機構九州がんセンター・院長

研究要旨

がん対策推進基本計画の重要施策の一つである「がんに関する相談支援と情報提供」は、がん相談支援センターの低い認知度、施設間や地域間格差などにより十分に機能していない。地域の情報提供・相談支援体制を効率化するために不可欠な人材の育成を通じて、相談支援・情報提供体制の在り方を考え療養を含めた地域情報づくりモデル等を提案することを目指し、本年度は、福岡県のがん診療連携拠点病院におけるがん情報提供・相談支援の実態を調査するとともに、以下のごとく、福岡県におけるがん情報提供・相談支援に関わるがん医療ネットワークナビゲーターの育成を行った。具体的には、情報提供体制に関するアンケート調査による地域ニーズの抽出への協力と、福岡県を中心とした情報提供・相談支援のための人材育成に関する活動を行った。後者では、がん医療ネットワークナビゲーター制度に主に集中し、(1)福岡県薬剤師会の理解を得て保険調剤薬局薬剤師への説明を施行し、(2)県内の複数の図書館への協力を依頼し、(3)福岡県がん診療連携拠点病院の相談員とナビゲーターの交流に関する拠点病院側の理解を取り付けた。これらの活動は、がん診療連携拠点病院におけるがん情報提供・相談支援の実効性解析、その有効性向上モデルの検討を行うために必須のステップである。

A. 研究目的

- 1) 生活圏で異なる多様なニーズに対応し、求められるものへと正確につなぐ「地域完結型情報提供・相談支援体制」の確立を目指す。その前提として必要とされる「がんの情報提供や相談支援に関する地域のニーズや問題点」を明らかにする。
- 2) 地域の情報提供・相談支援体制とこれを補強する人材養成プログラムとを検証し、地域ニーズの抽出に基づく相談支援・情報提供体制の在り方、これを効率化する人材の育成と介入モデル、療養を含めた地域情報づくりモデル等を提案する。

B. 研究方法

- 1) 福岡県がん診療連携拠点病院が中心となるがん診療連携協議会等において、聞き取り調査等を実施し、がん情報提供・相談支援に関する課題、相談内容について整理する。
- 2) がん診療連携拠点病院の相談支援センター/地域統括相談支援センター/医療・ケアネットワーク等を対象としてアンケート調査を行う。

- 3) がん医療ネットワークナビゲーター（以下、がんナビと略す）養成プロジェクト（H26-がん政策-一般-007）でモデル事業の対象県である群馬県において、養成のためのシステム作りを模索し、さらに養成したがんナビの活躍の場を提供できる体制を構築する。

（倫理面への配慮）

本研究では介入試験は行わないが、モデル事業における評価は疫学研究の対象になると考えられ、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」を遵守してこれを行う。

C. 研究結果

- 1) 福岡県がん診療連携拠点病院が中心となるがん診療連携協議会等において、聞き取り調査等を実施し、がん情報提供・相談支援に関する課題、相談内容の地域特性を明らかにした。
- 2) 頻回の議論に参加し、アンケート調査を完成した。福岡県における病院・診療所・地域統括センター・訪問看護ステーション・居宅介護事業所・保険著剤薬局・市町村の窓口・保健所・公共図書館・患者会などのリストアップを行った。

福岡県 521 施設へアンケートを送付した。その結果、222 施設から回答を得た（回収率 46.8%）。その結果の詳細は、分担研究者である渡邊清孝医師により報告される。

- 3) 福岡県におけるがん情報提供・相談支援に関わるがんナビの育成を行った。周知の活動として、数回の訪問により福岡県薬剤師会の理解を得て、保険調剤薬局薬剤師への説明を施行した、県内の複数の公共図書館へのがんナビ周知の協力を依頼した、福岡県がん診療連携拠点病院が中心となるがん診療連携協議会における本活動の周知に始まり、情報提供・相談支援関連の部会の承諾を取り付けて、がん専門相談員とがんナビの交流に関する理解を取り付けた。
- 4) また、日本癌治療学会におけるがんナビ養成のための多くの会議に出席し、意見を述べた。

D . 考察

がん相談支援センターの低い認知度、施設間や地域間格差など、がん対策推進基本計画の重要施策の一つである「がんに関する相談支援と情報提供」は、により十分に機能していない。現在のがん診療連携拠点病院における情報提供・相談支援に関わる人員配置の現状は年々高まるニーズに対応するには不十分であり、周知活動にも限界がある。そのためには、市井にあってがんの情報提供や相談支援への手助けができる人材の育成が急務であり、この点に本研究の最大の意義がある。

そのための活動は、地域間格差に十分配慮しつつ、全国展開をしていかなければならない。福岡県では、その対象を第一に保険調剤薬局薬剤師にしている。全国のモデルとなることのできるような活動をしていく予定である。

一方で、がんナビが養成された場合には、その活躍の場を提供する必要がある。保険調剤薬局薬剤師は勤務場所が活躍の場になりうる。それでも、その活動の質を維持するためには、がん診療連携拠点病院のがん専門相談員との定期的な交流が必要不可欠であると考えられる。それは、がんナビの相談相手の確保や実際のがん患者のがん相談支援センターへのアクセスの橋渡しにも必須の要件である。このためには、がん診療連携拠点病院側の理解を求めていくことが、がんナビ養成の全国展開には必要であることを意味している。。

F . 研究発表

1. 論文発表

- 1) 太田光彦、池部正彦、森田勝、江頭明典、吉田大輔、信藤由成、南一仁、藤也寸志. 特集: 食道外科・消化管吻合アラカルト - あなたの選択は? 頸部食道胃吻合: 三角吻合臨床外科, 72(4):402-404, 2017.
- 2) 太田光彦、香川正樹、中司悠、杉山雅彦、吉田大輔、池部正彦、森田勝、藤也寸志. 胃癌 - 開腹手術. 臨床と研究, 94(12):51-57, 2017.
- 3) 河野浩幸、吉田大輔、南一仁、山本学、池部正彦、森田勝、藤也寸志. 穿孔性腹膜炎による *Aeromonas hydrophila* 敗血症の 1 例. 日本救急医療会誌, 28(11):857-862, 2017.
- 4) Sugimachi K, Iguchi T, Morita M, Toh Y. Subtotal Cholecystectomy as a Last Resort for Complicated Gallstone Disease. *J Am Coll Surg*. 2018 Feb;226(2):201-202. doi: 10.1016/j.jamcollsurg.2017.10.011.
- 5) Li J, Xu R, Xu J, Denda T, Ikejiri K, Shen L, Toh Y, Shimada K, Kato T, Sakai K, Yamamoto M, Mishima H, Wang J, Baba H. Phase II study of S-1 plus leucovorin in patients with metastatic colorectal cancer: Regimen of 1 week on, 1 week off. *Cancer Sci*. 2017 Oct;108(10):2045-2051. doi: 10.1111/cas.13335. Epub 2017 Sep 9.
- 6) Honjo H, Toh Y, Sohda M, Suzuki S, Kaira K, Kanai Y, Nagamori S, Oyama T, Yokobori T, Miyazaki T, Kuwano H. Clinical Significance and Phenotype of MTA1 Expression in Esophageal Squamous Cell Carcinoma. *Anticancer Res*. 2017 Aug;37(8):4147-4155.
- 7) Tachimori Y, Ozawa S, Numasaki H, Ishihara R, Matsubara H, Muro K, Oyama T, Toh Y, Udagawa H, Uno T; Registration Committee for Esophageal Cancer of the Japan Esophageal Society. Comprehensive Registry of Esophageal Cancer in Japan, 2010. *Esophagus*. 2017;14(3):189-214. doi: 10.1007/s10388-017-0578-4. Epub 2017 May 19.
- 8) Miyazaki T, Kitagawa Y, Kuwano H, Kusano M, Oyama T, Muto M, Kato H, Takeuchi H, Toh Y, Doki Y, Naomoto Y, Nemoto K, Matsubara H, Yanagisawa A, Uno T, Kato K, Yoshida M, Kawakubo H, Booka E, Kawamura O, Fukuchi M, Sakai M, Sohda M, Nakajima M. Decreased

risk of esophageal cancer owing to cigarette and alcohol cessation in smokers and drinkers: a systematic review and meta-analysis. *Esophagus*. 2017;14(4):290–302. doi: 10.1007/s10388-017-0582-8. Epub 2017 June 8.

- 9) Okuno T, Wakabayashi M, Kato K, Shinoda M, Katayama H, Igaki H, Tsubosa Y, Kojima T, Okabe H, Kimura Y, Kawano T, Kosugi S, Toh Y, Kato H, Nakamura K, Fukuda H, Ishikura S, Ando N, Kitagawa Y; Japan Esophageal Oncology Group/Japan Clinical Oncology Group. Esophageal stenosis and the Glasgow Prognostic Score as independent factors of poor prognosis for patients with locally advanced unresectable esophageal cancer treated with chemoradiotherapy (exploratory analysis of JCOG0303). *Int J Clin Oncol*. 2017 Dec;22(6):1042-1049. doi: 10.1007/s10147-017-1154-6. Epub 2017 Jul 17.

2. 学会発表

当該研究に関する発表なし

G . 知的財産権の出願・登録状況

当該研究に関する出願・登録なし